

米軍は報復作戦をやめよ！ 自衛隊は撤退を

イラク・ファルージャで米軍が報復攻撃し、住民が600人も犠牲になっています。イラクの人たちは、占領軍の撤退を求めているのです。軍事占領を応援する自衛隊は、撤退すべきです。

軍事警備会社に勤める米国人4人が殺害された報復として、米軍はファルージャを包囲する大規模な軍事作戦を展開しました。イラクの人たちにとって、神聖な場所・モスク(礼拝堂)まで空爆し、無差別に発砲し、住民が600人死亡しました。大きな衝撃がイラク国民にひろがりました。このため、スンニ派もシーア派も協力的、全土で米軍反対の運動が高まっています。

ファルージャで何がおこっているか



人道支援の妨害
自衛隊が派兵されることで、イラクの人たちは日本のイメージを「アメリカの味方」と敵視し始めました。だからイラクで人道支援しているボランティアは「迷惑な話であり、危険だ」と心配していたのです。

人道支援に役立たず

自衛隊は復興支援をしているといいますが、給水支援にしても、わずかなもの。もともと軍隊は戦争の訓練はしていますが、復興支援に不向きです。

もともと自衛隊派兵に大義なし

もともとイラクに自衛隊を派兵すること自体が大きな誤りでした。無法な戦争を支持し、アメリカの軍事占領に参加するのが目的でした。

イラクで武装グループに拘束されていた日本人5人が全員無事解放されました。心から喜びたいと思います。しかし、イラクは、たいへん深刻な事態になっています。いま、あらためて自衛隊の派兵を続けていっているのか、問われています。